

JA全農ウィークリー

J A Z E N - N O H W E E K L Y



3面

メーカー間連携で
ハウス復旧迅速化
(耕種資材部)

4面

「91農業」普及へ
役職員が現場で体験
(耕種総合対策部)

Web版
JA全農ウィークリーは
こちらから



<https://www.zennoh-weekly.jp/>

News!



国産青果物の適正な価格形成と消費拡大を

全中・青果卸売会社と連携して小売業界団体などに要請

園芸部



日本チェーンストア協会へ訪問し要請文を手交

昨年からの国際情勢急変に伴う海外原材料価格の高騰や、急激な円安の進行などが続いて生産資材価格が高騰。加えて物流コストや人件費も上昇し、生産者の農業経営を圧迫しています。こうした状況を受け、全農は小売業界などの団体である、日本チェーンストア協会、(一社)全国スーパーマーケット協会、(一社)日本フードサービス協会を訪問し、持続的

全農は8月1〜4日、全中と青果卸売会社の業界団体とともに小売業界などの団体を訪問し、適正な価格形成に向けた理解、国産青果物の消費拡大について要請活動を実施しました。



(一社)全国スーパーマーケット協会へ訪問し要請文を手交

な生産に向け営農が継続できる適正な価格形成と国産青果物の消費拡大について要請しました。業界団体からは「生産者の置かれている状況は十分理解できる。青果物の市場仕入れは、数量の需給バランスで価格が決まるため、コストが反映されていないことは十分承知している。このことが消費者に理解されるよう一緒になって取り組みたい」との回答がありました。

News!



料理レシピ本大賞の料理部門準大賞

『JA全農広報部にきいた世界一おいしい野菜の食べ方』

広報・調査部



アンバサダーの天野さんより表彰状が授与されました

同賞は「料理レシピ本としての指標を示し、魅力をアピールし、その価値を広く浸透させること」を目的に創設され、今年で10回目を迎えました。同部監修で株式会社KADOKAWAから出版された『JA全農広報部にきいた世界一おいしい野菜の食べ方』が、料理部門で準大賞を受賞。9月12日に都内で行われた授賞式で、アンバサダーを務める天野ひろゆきさんから賞状が授与されました。

全農広報・調査部監修で2022年6月に出版された書籍『JA全農広報部にきいた世界一おいしい野菜の食べ方』が、第10回料理レシピ本大賞 in Japan・料理部門の準大賞を受賞しました。

プレゼントコーナー

受賞を記念してこの書籍を10名様にプレゼントします。皆さまのご応募をお待ちしています。応募方法は2次元コードからアクセスしてください。



料理レシピ本大賞の料理部門準大賞を受賞した『JA全農広報部にきいた世界一おいしい野菜の食べ方』

が運営するツイッター(現X)で紹介している旬の野菜の見分け方や調理・保存方法など、野菜のおいしさをさらに引き出す技を分かりやすく紹介しています。

応募締め切り2023年10月13日(金) 23時59分



メーカー間連携でハウス復旧迅速化

パイプハウスメーカーと年内に災害時協定締結へ

耕種資材部



会議には全農と取引するメーカー 16社が参加

そこで、被災してない県域のメーカーがこうした作業の一部を機動的に支援し、全農がJAグループ各組織やメーカー間の調整を行うネットワークを構築することで、被災地域の迅速な復旧につなげていきます。

パイプハウスなどの園芸施設は自然災害により損壊を受けやすく、数年おきに風や大雪などでパイプハウスが被害を受けた場合、ハウスの解体・撤収、現地調査、見積書作成、製造・加工、施工など被災地域のメーカーは短期間に膨大な作業を行う必要があり、人手や材料供給が追いつかないことが課題として指摘されてきました。

施設は自然災害により損壊を受けやすく、数年おきに

施設園芸産地に甚大な被害を受けた場合、ハウスの解体・撤収、現地調査、見積書作成、製造・加工、施工など被災地域のメーカーは短期間に膨大な作業を行う必要があり、人手や材料供給が追いつかないことが課題として指摘されてきました。

全農は、自然災害時にパイプハウスメーカーが県を超え、人手や資材調達・施工を融通し合うネットワークの構築を目的として、9月5日に取引する16社を集めた会議を開きました。災害時のメーカー間連携に関する基本方針を説明し、年内に協定書を締結することで各社の基本合意を得ました。



岩手県食育普及啓発キャラバンに参加

食の大切さを次世代へ いわて純情むすめらこども園を訪問

岩手県本部

2023いわて純情むすめによる紙芝居の読み聞かせ



県の環境生活部職員と2023いわて純情むすめによるキャラバン隊は、食品ロス削減を啓発する絵本や、「いわて牛」と「いわて純

この活動は、岩手県と県食育推進ネットワーク会議が主催。県内の保育園や幼稚園を訪問し、広く県民に食育の重要性について伝え、県民運動として食育の普及を図ることを目的に実施しています。

岩手県本部は8月29日、「令和5年度岩手県食育普及啓発キャラバン」に参加しました。県本部からは、2023いわて純情むすめがキャラバン隊として県内のこども園を訪問し、子どもたちに食の大切さを伝えました。



「エコロル」と食育ダンスを踊るキャラバン隊

県本部では引き続き地域に根ざした食育推進のため、乳幼児期における食育の重要性とその理解、普及を図る取り組みを続けていきます。

情豚」を題材にした紙芝居の読み聞かせや野菜のクイズを実施。岩手県3R推進キャラクターの「エコロル」と県作成の「食育ダンス」を踊るなどの活動を通じて、子どもたちに食の楽しさを伝えました。

News!



「91農業」普及へ役職員が現場で体験

山形・福島県で収穫作業、交流会にも参加

耕種総合対策部



山形県ではサクランボ収穫作業を体験



福島県では猛暑の中、ハウス栽培ピーマンの収穫作業を体験

全農は、「あなたのライフスタイルに農的生活を1割取り入れませんか？」をコンセプトに、人手不足の解消と農業を通じて地域に関わる「農業関係人口」の増加を目的とした「91農業」を提唱しています。6月に山形県、8月には福島県で職員が農作業と交流会を行いました。

労働力支援に係る現場業務の実態や課題を把握するため、職員が研修や副業で農業現場に向く取り組みを進めています。

6月22～24日には、富田健司前常務理事ら10人が山形県天童市でサクランボ収穫作業を行いました。山形県本部が実施する異業種交流会にも参加し、有意義な3日間となりました。

県本部3人、本所13人が南相馬市でハウス栽培ピーマンの収穫作業を行いました。猛暑の中、生産者の苦労を実感し、生産者との昼食会では意見交換も行いました。

今後も職員が農業現場に参加する取り組みを進めるとともに、多様な人材がおのライフスタイルに合わせて農業に関われるよう「91農業」を進めていきます。

News!



大田市場でブドウをトップセールス

長崎知事や中澤会長らが市場関係者においしさPR

山梨県本部

山梨県本部は8月29日、山梨県農畜産物販売強化対策協議会が主催する県産ブドウの消費拡大・販売促進活動を図るためのトップセールスに参加しました。

東京都中央卸売市場大田市場で、市場関係者へのプロモーションとして県産ブドウの配布・展示やトップセールスを展開しました。

競り場・特設会場には県産の「シャインマスカット」「ピオーネ」「クイーンニーナ」の展示コーナーを設け、長崎幸太郎県知事と同協議

会の中澤昭会長ら関係者が県産ブドウのおいしさを大勢の市場関係者に向けてアピールしました。

長崎知事は「おいしい未来へやまなし」と銘打ち、より高いブランド力を持って皆さまにお届けできるように日々研さんを積んでいる」と、中澤会長は「今年もシャインマスカットをはじめ巨峰、ピオーネなど素晴らしい県産ブドウが仕上がっている」とあいさつしました。



山梨県産ブドウを市場関係者にアピールする中澤会長



競り場・特設会場に県産ブドウを展示

News!



ジャスポート京田辺 洗車場リニューアル

拭き上げスペースも広げて利便性向上に細やかな工夫

京都府本部

京都府本部が運営するジャスポート京田辺は8月25日に洗車場をリニューアルオープンし、好評を得ています。

洗車場はスタンドに併設していることや、道路をはさんで双方に入りしやす設計となっており、ことから改装前の時点でも利用台数は全国のJAとSSでトップの実績を上げていました。

改装では、混雑時の待ち時間解消と回転率向上のため、拡張した敷地にドライブスルー式洗車機を3台設置。拭き上げスペースは12台から28台分に増やし体制を一新しました。

燃料販売も8月に1000キロを超えており、今後も2次元コード決済率の拡大や洗車アプリの導入などさらなる利便性の向上に努めます。

増設され新しくなった洗車場



京田辺SS LINE アカウト



News!



「笑味ちゃん天気予報」に女性部員登場

エコープマーク品と県産農産物のコラボレシピ紹介

岡山県本部

岡山県本部は平日午後6時50分からRSK山陽放送が放送する岡山・香川エリアのお天気情報番組「JAグループ岡山プレゼンツ『笑味ちゃん天気予報』」で、毎月第4水曜日にエコープマーク品をPRしています。

生産者や旬の農産物、直売所紹介などを行うコーナー「JA便利」では今年度からJA女性部協力のもと、女性部員イチオシ商品と旬の県産農産物を組み合わせたレシピを紹介しています。

エコープマーク品を愛用する方の声とまねしやすレシピを発信することで、視聴者の共感を得ながらも、安全・安心な商品と、その万能さをPRしています。



RSK山陽放送の難波紗也アナウンサー(左)とおススメのマーク品を紹介するJA晴れの国岡山新見女性部の三吉孝美部長

放送は番組公式YouTubeの見逃し配信、レシピや収録の様子を番組公式HPでご覧いただけます。

News!



全農グループ総務・人事関連講演会

ライン長らが反社対応・人権課題について考える

総務人事部

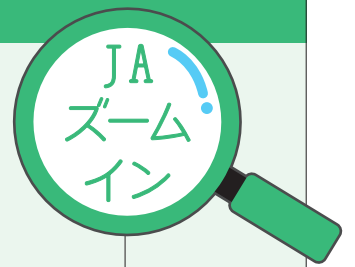
全農は8月31日、東京・大手町のJAビルで「全農グループ総務・人事関連講演会」を開きました。本所各部・事業所・県本部のライン長・子会社の人事担当部長ら約200人が出席しました。

第一部「反社会的勢力に対する対応研修会」に引き続き、第二部「人権・同和に関する講演会」では西島藤彦部落解放同盟中央執行委員長より「全国水平社創立100周年『新たな決意』と今後の解放運動への思い」というテーマで講演していただきました。



「人権・同和に関する講演会」での西島委員長による講演

西島委員長からは「人権配慮が重要視されるようになった昨今の世界情勢を踏まえ、全農グループ全体として人権・同和への理解醸成を進めることが日本全体の人権意識を変え、強いメッセージをいただきます。」と述べました。



即戦力となる人材の確保へ

定年帰農者育成プロジェクト

JA愛媛たいき (愛媛県)



概要	2023年3月31日現在
正組合員数	7122人
准組合員数	5436人
職員数	407人
販売品取扱高	42億4千万円
購買品取扱高	51億6千万円
貯金残高	1371億8千万円
長期共済保有高	3162億6千万円
主な農畜産物	キュウリ、トマト、イチゴ、 ハクサイ、キウイフルーツ、 柿、ブドウ、栗、シタケ

JA愛媛たいき管内は、海拔0㍎の沿岸部から500㍎の山間部まで、変化に富んだ地形を生かし、多様な農業が営まれています。その一方で、農業従事者の高齢化や担い手不足による栽培面積・生産量の減少は、



アーチ設置講習会

年々深刻化しています。そんな中、JA営農部は、即戦力となる人材確保のため、定年を迎え就農を希望する「定年帰農者」を対象とした栽培講習会「シン・たいきプロジェクト」を立ち上げました。

品目は比較的初期投資が少なく、始めやすい露地キュウリを設定。JA管内在住、3㍎以上の圃場ほじょうを所有、JA部会への入会可能などの条件を設けた上で受講生を募集。JAの定年退職者や農業経験がある5人を受け入れました。

講習会で学び 個人の畑で実践

講習会は、担い手育成と地域農業の維持拡大を目的



キュウリの定植講習会

に2019年に設立されたJA出資型営農法人(株)P・i・Nokyoたいき(以下ピノキオ)と連携して実施しました。キュウリ栽培の実技は、ピノキオの管理圃場でJAの営農指導員が講師となり、県の協力を得ながら、苗の成長に合わせて作業の基礎を学びました。また、JAへの出荷方法や代金精算



キュウリの栽培講習会

についても説明し、経営収支の用途を立てやすい情報提供に努めました。

受講生のほとんどが、講習会と並行して自身の圃場でキュウリ栽培をスタート。学びの即実践と指導員の小さな巡りが功を奏し、目標収量(3㍎当たり2・5ト)を達成しています。同プロジェクトは次年度も引き

続き実施する予定で、他品目での実践も検討しています。

動画のマニュアルで 多様な農家を支援

講習会では動画を撮影し、栽培マニュアルとしての編集を進めています。今後の管内農業活性化への活用を目指しています。

JAはこれからも、組織力を生かして多様な農家を支援し、地域農業を支える取り組みを実施します。



順調に育つキュウリ

「全農レポート2023」を発行

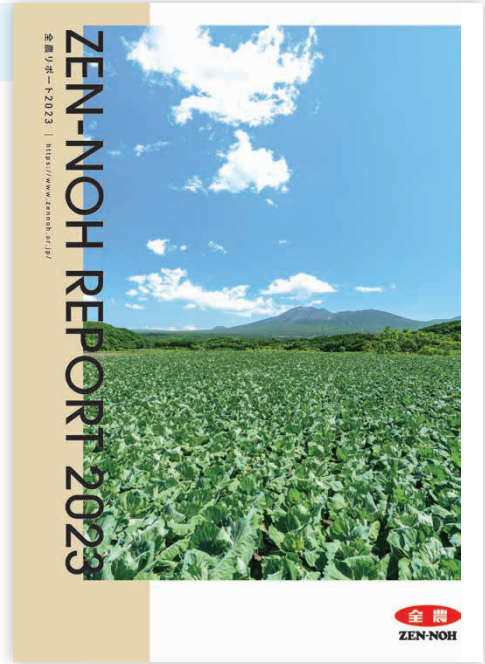
事業内容や取り組みについて幅広く解説

全農は9月20日、令和5(2023)年度事業戦略や事業内容について紹介する冊子「全農レポート2023」を発行しました。

【広報・調査部】

全農は、事業内容などについて幅広く組織の内外へ伝えるため、毎年「全農レポート」を発行しています。本会職員やグループ会社をはじめ、取引先や関係機関、メディア、有識者らに配布しています。また、シンポジウムや研修会などでも配布・説明し、本会の事業や取り組みに対して理解いただくための一助としています。

「全農レポート2023」では、協同組合である全農の役割、食と農を取り巻く環境、全農がいま取り組んでいることや事業内容、広報・社会活動などについて、幅広く解説しています。



「全農レポート2023」の表紙

事業計画に沿った取り組みの紹介

中期(令和4~6年度)事業計画の取り組む具体策として、生産振興、食農バリューチェーンの構築、海外事業展開、地域共生・地域活性化、環境問題など社会的課題への対応、JAグループ・全農グループの最適な事業体制の構築について紹介しています。



中期(令和4~6年度)事業計画の説明

各事業部門の紹介

各事業部門の紹介ページでは、「全農の役割」「全農の取り組み事例」「職員インタビュー」の3つで構成しています。「全農の役割」では流通経路の図を用いることで、全農の機能を分かりやすく紹介しています。



「事業部門紹介」ページ

ホームページへの掲載

「全農レポート2023」は全農ホームページで公開しています。電子冊子でご覧いただけるほか、PDFでのダウンロードも可能です。全農について理解を深めていただくために、「全農レポート2023」をぜひ活用ください。

全農
レポート2023は
こちらから



「全農レポート2023」の目次

ページ	掲載内容
4	トップメッセージ
6-18	全農について
19-22	食と農を取り巻く環境
23-43	全農がいま取り組んでいること
44-63	事業部門
64-70	都府県本部紹介
71-80	広報・社会活動
81-92	組織情報

「ニッポンエール」でサツマイモ菓子2品

鹿児島県産「黄金千貫」を使ってけんぴ、チップス

全農は、鹿児島県産サツマイモ「黄金千貫」を使用した菓子2品「さつまいもけんぴ」「さつまいもチップス」を開発しました。「ニッポンエール」の新商品として全国農協食品(株)から全国の量販店などで9月30日から販売しています。

【営業開発部・全国農協食品(株)】

「黄金千貫」は、優しい甘さとほくほくとした食感が特長のサツマイモです。芋焼酎などの原料としても

使われている「黄金千貫」を100%使用し、昔から親しまれているサツマイモ菓子を商品化しました。

素材のおいしさをそのまま生かした「さつまいもけんぴ」「さつまいもチップス」の優しい味わいを、ぜひお楽しみください。

全農は、今後も「ニッポンエール」を通して、全国の産地・JAと連携した商品開発に取り組んでいきます。



さつまいもけんぴ
(内容量120g)



さつまいもチップス
(内容量110g)

エコープ「飲む黒酢de」シリーズ第3弾

JAおきなわと協力し「黒糖シークワサー一味」を新発売

全農はエコープマーク品で展開している「飲む黒酢de」シリーズ第3弾「黒糖シークワサー一味」を10月2日から全国で発売します。

【くらし支援部】

くらし支援部では、沖縄県産黒糖の消費拡大につなげるため、JAおきなわと協力しながら黒糖を原料に使用したエコープマーク品の開発に向け、試行錯誤を重ねてきました。

その結果、黒糖のコクにはまろやかな酸味の黒酢、黒糖の甘さ・香りには、さわやかな香りと酸味が特徴のかんきつ「シークワサー」が調和することが判明しました。

国産有機玄米を使用しじっくり熟成した黒酢に沖縄県産黒糖と「シークワサー」果汁を使用した、さわやかな香りが特徴の飲みやすい飲用酢に仕上がりました。



商品名
エコープ飲む黒酢de
黒糖シークワサー

発売日
10月2日(月)

内容量・参考売価
ストレートタイプ1L
369円(税抜き)
6倍濃縮タイプ300ml
449円(税抜き)

JA全農の産地直送通販サイト
JAタウン ショップ紹介

JA鹿児島県経済連
鹿児島の味「ふるさと便」

「マロンゴールド」は、鹿児島ではJAいぶすき管内でしか栽培されていない県内でも珍しいサツマイモです。その名の通り焼いたときに「マロン=栗」のような甘さと「ゴールド=こがね」のような優しい黄金色に発色することが特徴です。

じっくり時間をかけて焼き芋にすると、水分をしっかり含んだしっとり柔らかな舌触りと濃厚な甘さを楽しむことができます。収穫される数量がまだ少ないため、なかなかお目にかかれない希少な品種です。ぜひこの機会にご賞味ください。



鹿児島県産マロンゴールド5kg……4400円(税込み)
※発送時期:10月中旬より順次発送



▶ JAタウンはこちらから <https://www.ja-town.com>
▶ お問い合わせは shop@ja-town1.com